広報
さめがわ

第110号
昭和37年
11月15日発行

編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町　佐藤印刷所



第1回の村民体育祭は、11月3日文化の日に、鮫小校庭を会場として、にぎやかに開かれた。中空にさくれつする花火を合図に、鮫中鼓笛隊のバンドにあわせ、堂々の行進で入場する大集団！プラカードをもつのは区長さん。議員さんも委員さんも、消防、婦人、青年の皆さんも、全員参加の大行進！

そのたくましい足音は、躍進をつづける鮫川村そのものの足音を象徴するものであつた。

初めて開かれた村民体育祭

文化祭こよみ

▲十一月三日（土）文化の日
○村民体育祭　村主催　鮫小
▲十一月四日(日)十一日(日)
○野球大会　社会人野球連盟主催　鮫小
▲十一月十一日（日）
○少年剣道大会　教委主催　鮫中
▲十一月十二日（月）
○畜産共進会　村主催　家畜管理所
▲十一月二十二日（木）
○駅伝競争　青年会主催　村内
○お嫁さんに感謝する会　村主催　公民館
○農業構造改善展　農委・農協主催　高校
○学童生徒作品展　教委主催　鮫小・高校
○生活改善展　生改推進協主催　研修所
○商工展　商工会主催　鮫小
▲十一月二十三日（勤労感謝の日）
○学童音楽会　教委主催　鮫小
○のど自慢三つの歌　青年会婦人会主催　公民館
○各展示会（継続）　各会場
○映画会　会期中毎日　鮫川劇場

新らしい農業

農業の機械化

最近、農業の近代化、省力化が強く叫ばれているがこれにつれ農作業の機械化も急速に進んでいます。

機械化農業と云うと、よく外国の例があげられますが、我が村の田畑一町歩当りの耕耘機の馬力数は現在一、三馬力で、昭和三十五年の全国平均が〇、八、西ドイツが一、四、フランスが〇、八、もつとも機械化の進んでいるアメリカでは〇、五馬力ですから単位面積当りの馬力数では先進国なみです。だがその中味が問題で、小型耕耘機は減価消却や購入資金の利息まで計算すると年間約七万二千円かかります。

本村で年間所得七万二千円多くなつている農家があるでしようか。耕耘機を購入する以前と同じ所得の農家は、耕耘機を入れたことによつて年間約七万二千円ずつ損をしている勘定になります。

現在耕耘機がどんどん増加しているのは、経営をよくするためというよりも、電気洗濯機や電気冷蔵庫と同じように、生活を楽しむためのものと考えられないでもありません。

現在の農業機械化は、今まで発達してきた手労働の農作業体系をそのまま機械化しようとしています。例えば水田の耕起は機械でやつても、田植は相変らず手労働でやつています。そのためにせつかく機械が入つても経営規模は大きくできないし、能率の悪い機械化と云うことになります。他の産業なら機械化すれば生産量を増すことができますが、農業においては、生産量は同じで、労働力の手間は浮きますが生産費はかえつて多くなつていく傾向があります。

将来、長くても今から三〇年後の農業者は一人で二十人（現在は七人）を賄かなわなければなりません。それに食生活の嗜好が変つてくることを考えると、現在の約十倍の生産額が必要と思われます。

これだけの生産額をあげるには、農業を機械化しなければなりませんが、現在のように手労働を機械に変える機械化でなく、大型機械化の作業体系—例えば前者は脱穀機で脱穀は機械でしても刈取、運搬は手でしないと脱穀ができない。後者はコンバインで刈取、運搬、脱穀まで機械でできる—によつて経営の規模を大きくしなければできません。

そのためには土地の基盤整備が必要になりますし、農家数も少なくなりましよう。現在農家の経営が零細なのは、農家数が多いためでなく、農作業を手労働でするためだとさえ云われています。

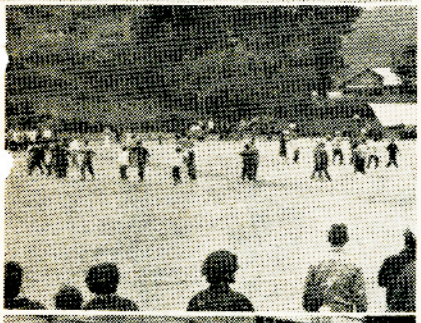
今後の機械化は、生活を楽にするための作業の機械化ではなく、経営を良くするために農業を機械化し、所得を増し、豊かな生活をすることを考えなければならないと思います。





……体育祭スナップ Ⅱ……

職場対抗リレーで力走する職場長さんたち。右端が石田村長。



……体育祭スナップ Ⅲ……

たのしそうな青年男女のスクエアーダンス、盆おどりのすたれをなげくに及ばず。



……体育祭スナップ Ⅳ……

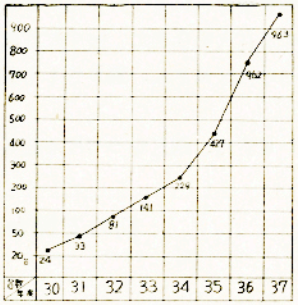
いつもはビンの中味にご縁の深い方々が、今日はビンつりに余念がない。

……体育祭スナップ……

夢よもう一度。新婚旅行のカード合せでゴールイン！

バイク・耕耘機はどの位あるのか！

時代の進歩にともない、バイク、耕うん機は著しく増加してきました。そこで昭和三十年から年度別に台数を調べてみました。



種類別台数調昭和37・10・現在

	軽自動四輪	自動二輪	耕うん機	第2種甲 125cc	第2種乙 90cc	第1種 50cc	計
赤坂西野		3	53	36	14	61	167
〃山		8	48	59	13	46	174
赤坂中野	5	14	36	42	9	24	130
赤坂東野	2	18	59	54	13	68	214
富田		4	28	17	2	18	69
渡瀬		8	51	28	2	31	120
青生野			35	18	11	14	78
その他		3		3		5	11
合計	7	58	310	257	64	267	963

11月の人口と世帯

人口 7,940（－7）

男 3,934（－2）

女 4,006（－5）

世帯数 1,254

おめでた

九月

一七日越虫 藤田久江

二一日沼野沢 松本守

二五日関口 藤田仁子

三〇日大平 関根ますみ

十月

一日宝木 花田光男

一日木戸沢三瓶 洋子

四日戸草本郷 浩幸

四日戸草 芳賀ミイ子

六日関下 藤田栄子

一一日道少田 板橋一好弘

一一日遠ケ竜森 森田栄子

一五日鍛木田 小川昌代

一七日薄ケ久保 高木義男

一八日青生野 森田栄子

二〇日赤柴 関根裕治

二三日大沢 石井明光

おくやみ

十月

二一日官代 宗田キチ

二四日本坂水野 喜一

二四日官代前田ミサオ

二六日戸草本郷 浩幸

三〇日新宿 鈴木俊一郎

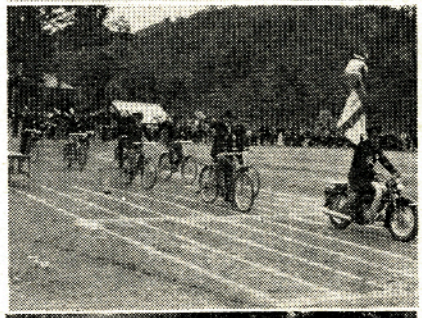
……体育祭スナツプ ー……体育祭スナツプ ー……体育祭スナツプ ー……体育祭スナツプ ー……



パン食い競争で珍風景を演ずる農業団体の役員さん。カツコのよいのは誰？



東西対抗の綱引きは初めが東方の勝。次に西方の勝で仲よく引分け……



郵便局員さんたちのパレード。先導のバイクに続くのが大池局長さん。



地区対抗リレーはやつぱり花形、断然リードする西山区長さん。

もち米の買入れ価格が高くなりました!!

今年のもち米の政府買入れ加算金は、一俵（叺）当り水稲は四五〇円、陸稲は二二五円と昨年より高くなりました。

水稲の場合は一俵（三等平均）が四、八七八円となります。また一俵にまとまらなくても十二月十五日までに売渡すことができるようになつています。

林道山田富田線開通

林道山田富田線は、総延長六、〇五〇メートル、巾員四メートルで総工事費四四八万円で昭和二十五年より山田地内から着工され、十三年目に完成しました。

本村内に入つてから九年目になり、地元の協力も容易でありませんでした。よろこびの開通式は去る十月二十九日に、関係者多数参会し富田小学校講堂で行なわれ、道路敷提供者等工事協力者に村長より感謝状が贈呈されました。



写真は開通式でテープを切る松本工区長さん。

納税だより

村県民税　第12期
固定資産税　第12期
保険税　第123期
軽自動車税
の

未納の方は是非今月中にご都合のうえ完納して下さい。

◎十二月の納税◎

固定資産税　第3期
保険税　第4期

納期ですから御準備下さい。

文化祭のゆきかた

村長　石田卯子八

本村の文化祭は今年で十五年目になります。初めは勤労感謝の日を中心にして、収穫をよろこぶ農業祭という色彩が濃く、それに学童の作品展を添えた程度のもので、青年会や公民館が推進力の中心でした。

その後レクリエーション行事も多くとりいれられ、画展、駅伝なども加えられて、現行のような規模に膨張してきました。経費も概ね村がうけもつようになり、全面的に村主催のような形になつていたのであります。

近年行事がマンネリ化してきたというので、関係委員会からも打開についての意見が出ていましたので、第十五回のこの機会に、新しいゆきかたを考えたわけですが、関係者の打合せ会でも十分協議して、次のような方針を定めたわけであります。

従来の集中行事を散開方式にする。

十一月二十二、三日に行事を集中すると、忙しいだけで実施する方も、参加する方も容易でないが、一定の稍長い期間に散開すれば、それぞれ好むところの行事に参加することができます。

主催責任団体の自主性を生かす。

文化祭は村がやるもので、各団体は村のためにやらされるという傾向がありましたがこれは誤りで、それぞれの機関や団体は、本来の性格から自から行うべき仕事をもつている筈であります。

その仕事を文化祭の枠の中で行うことによつて、最も効果的にその所属団体員に対するサービスが出来ることになるわけですから、本年はそれぞれの機関や団体が、主催責任者になつて行事をもつことにしたのであります。

今年の文化祭は、このような方針で計画されたため、十一月三日の文化の日から、二十三日の勤労感謝の日まで散開して開かれることになりました。

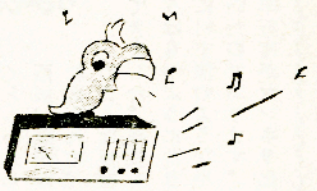
新しく企画に入つたものでは十一月三日の村民体育祭。四日と十一日の野球大会。同じく十一日の少年剣道大会。十二日の畜産共進会などで、二十二日と二十三日は集中行事になります。

二十二日には、農村のお嫁さんに感謝する会というのが計画され、平素家庭内で働くことの多い若いお嫁さんたちのために、感謝と慰安の集いがもたれます。

また農業者の関心の的である、農業構造改善の夢を描く構造改善展は、農業委員会と農協の主催責任で行われ、依然として人気を持続しているのど自慢や駅伝は、青年会と婦人会が主催することになつています。

それぞれの行事を、自由に選ばれて多数参加されますことを希望しております。

村の歩み（37）

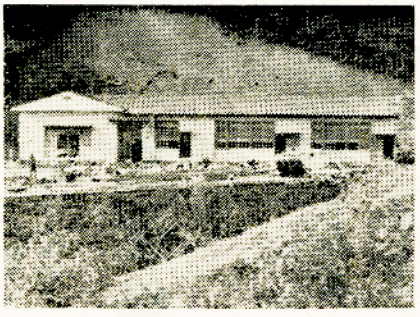


東野分校 建築落成

鮫小東野分校が十一月六日落成しました。

七月十四日に工事着工（請負者渡辺産業株式会社）十一月三日完成した。構造のあらましは木造平屋建教室四、宿直室その他、事業費総額三、二八五千円。

地元協力会では敷地の買収整備から、道路、保全工事などを行ったほか、建築費六十万円を寄付しました。



立派に完成した東野分校

まずしい人に 心のおくりもの

今年も恵まれない人々のために!!歳末たすけあい運動!!を行なうことになりました。

まずしい人のために、多少の金品でも、あたたかい心でたすけあいに御協力願います。

期間は十一月二十日より十二月十五日まで、金品は村役場、区長又は民生委員が取扱います。

村有建物の売却

鮫川村、古殿町かくり病舎組合の伝染病舎が新築運営されて、今までの村営厚生病舎（かくり病舎）は不用になったので、公売処分されることになりました。

売却の方法等については、公示によりお知らせします。

農林大臣から 御招待

光栄の矢吹市さん

昭和三十六年度県畜産共進会において、晴れの農林大臣賞（乳牛）を受けた中野の矢吹市さんは、勤労感謝の日に招待され、農林大臣晩さん会に出席されます。

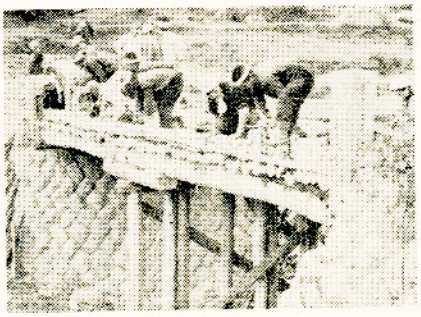
自衛官募集中

わが国の平和と
独立を守る栄誉
たくましい心と
技術の練成
安定した生活と
将来への飛躍

大録田橋 復旧する

西山地内の村道大録田橋が地元の協力により、十月二十九日に復旧しました。

写真は工事中の大録田橋



野ネズミは 農家の大敵

今年も農作とともに野ネズミがたいへんはん殖しています。秋のとり入れ作業が進むにつれて、野ネズミも冬ごもりの準備のために活発な活動を始めます。とくにこれからは家屋に入ってきて、あらゆるものを荒しますが、また私たちにとって、最も恐ろしいワイル氏病の保菌者にもなります。ことしも徹底的な野ネズミ退治を実行して下さい。

郷土史の伝説

弓張堂山（ゆみはりどうやま）(10)

中井恒雄

昔々いまの東白川郡がまだ大きな湖だった頃の話しです

渡瀬の弓張堂山のあたりから西は棚倉、南は矢祭山のあたりまで青々とした湖の底だったのです。勿論塙や近津の街もみんな湖の底で、貝や海藻がおい茂っていて貝は一メートルもの大きなものや、海藻は杉の大木の様な大きいものばかりでした。

この湖の近くの土民達はこの貝や魚を取って生活をしていました。だからこの湖を神の湖と呼んでいました。



或日、一人の土民が湖で漁をしていました。どうしたことか、今日に限って少しも収穫がありません、それでも土民は夕方まで漁に一生懸命でした。日が西に沈んでしまったので家に帰ろうとして準備にとりかかると、湖が急に荒れて一ぴきの大蛇がカマ首をもち上げました。そしてその土民を飲込でしまいました。この神の湖には近頃大蛇が住む様になり魚はもとより貝までも食べていたのでした。それで土民が漁に出ても魚が一ぴきも取れなかったのです。

大蛇は湖の魚を一ぴきのこらず食べてしまうと今度は漁に出てくる土民をも飲込でしまうのでした。この地方の土民達はたった一つの重要な生活の場所をこの大蛇に取られてしまい、生活は苦しくなるばかりでした。

この話を聞いた弓の名人八幡太郎が、この大蛇を退治してやろうと決心しました。そしてこの地にやって来て、弓を今の赤坂東野字弓張木地内から取って行き、渡瀬にある一番高い山（今の弓張堂山）の頂上の石を台にして大蛇めがけて矢をはなちました。矢はピューと音を立てて飛び、みごと大蛇の急所に当ったので、大蛇は一たまりもなく倒れてしまいました。

その矢が湖の淵まで飛んで行き湖の水がすっかり流れ、それで棚倉や塙のあたりの様になりました。今でも蛇頭神音があり、その骨をケズリせんじて飲むと万病の薬と言う矢は矢祭山に祭られ、その頃漁主の舟の発着場所が今の渡瀬だとか。（郷土史家）

編集あとがき

○ 毎号発行日がきまっている広報が、おくれないよう心がけていますが、いつもぎりぎりで、あせるは気ばかり…

○ あの記事も、この記事も沢山のせたつもりで印刷して見ると少ない感じ。

○ みなさんの原稿もドシドシ係まで。

○ 村内のめずらしい写真などお貸し願います。広報紙に掲載しものは薄謝を差し上げます。

○ 新生活の標語募集については沢山の応募がありました。厚くお礼申します。優秀な標語ばかりで現在推進協議会で審査中、次号で入選者を発表します。

○ みなさんに親しまれる広報紙であるようにお気づきの点はおきかせ下さい。



さてこれは何でしょう。（こたえは次号）